［有明抄］（2018.2.21）

年　　組（氏名）

○「１票」についてアメリカの上院の考え方と日本の参議院の考え方の違いを説明しよう。

米国（上院）： という考え方 日本： という考え方

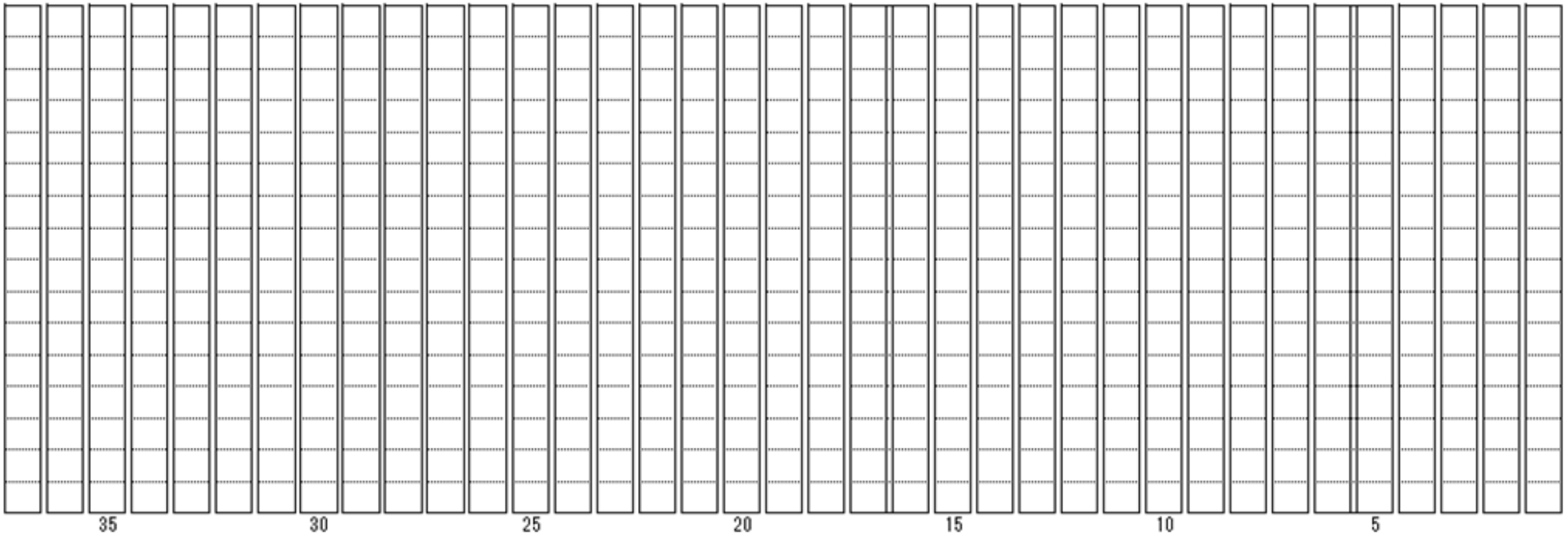
○「合区」と「都道府県から（最低）１票」のメリット・デメリットをまとめよう。

	合区	都道府県票
メ		
デ		

○「合区」、「都道府県票」のどちらに賛成ですか。理由も書こう。

○今日の有明抄にタイトルをつけてみよう。

有明抄

アメリカでは「1票の格差」が70倍を超えているとか。自由と平等を掲げる国で、なぜと首をかしげたくなるが、国の成り立ちに理由がある◆米国の議会上院は、議席を各州ごとに2議席ずつ割り振っている。これを人口比に置き換えると、その格差はとてつもなく大きくなるわけだ。州の代表という性格を持たせているためで、いわば合衆国は各州が集まった〝合州国〟である◆日本ではこれまで、1票の格差を縮めようとするあまり、参議院で「鳥取・島根」「徳島・高知」を一つの選挙区にまとめる「合区」にまで進んでしまった。人口が少ない県は一緒にしてしまえという、ずいぶん乱暴な数合わせである◆ここにきて、1票の格差をめぐる議論が熱を帯びている。自民党が、参議院を各都道府県から少なくとも議員1人を選出できる改憲案をまとめたからだ。東京一極集中がこのまま進めば、地方の声が反映されにくくなる。人、物、金をのみ込んで膨張する都市部の存在感が増す一方で、地方はないがしろにされかねないという危機感の表れである◆参議院は「良識の府」と呼ばれるが、ともすれば、衆議院の判断を追認するだけの「カーボン・コピー」と揶揄されてもきた。米国の上院さながらに、参議院で地方の発言権を確保する―。決して悪くないアイデアに思えるのだが…。（史）

2018.2.21